

114. タブレット端末

技術戦略部次長 川本和昭

先日、パソコンのOS(基本ソフト)であるウィンドウズ8が発表された。パソコンがスマートフォンやタブレット端末のように、画面に触れることで操作ができるという特徴がある。

このOSを搭載した機種には画面がとりはずせて、タブレット端末のように持ち出せるというものがあつた。なかなか便利そうだと思って値段をみたら、10万円以上もした。

もっとも、iPad(アップル社のタブレット端末)でも4万円以上するから、このくらいの値段になるのもやむを得ないのかもしれない。

実は、私も最近タブレット端末を購入した。中国製のいわゆる中華パッドと呼ばれるもので1万円少しで買えた。安価なことも購入の理由だが、大きな理由は、有線でインターネットに接続できる点である。iPadなどはインターネットとの接続は3GあるいはWiFiなどの無線でしか接続できないらしい。

タブレット端末購入の目的が旅先のホテルでインターネットを使うことなので無線接続しかできない機種では、泊まったホテルが無線対応していない場合、アダプターを追加しないと端末が使えず面倒である。有線のインターネット接続端子(LAN端子)は、最近は大体のホテルの部屋にあるので、有線接続できればインターネットが使える。携帯をスマートフォンにすればいいのだが、旅先でしか使わないのもったいない。

購入した中華パッドはときどき動作がとまったり、ソフトのダウンロードがうまくできなかったり、内蔵バッテリーの持続時間が1時間くらいと不満は多々あるが、旅先のホテルでインターネットに有線で接続でき、当初の目的は達成できた。画面も7インチとiPadなどに比べて小さいが、その分安価で軽量なので気にならない。最近では7インチ画面の他機種も増えてきたようで世間ではこういう考えの人も多いようだ。

先日、下水道新技術推進機構の委員会に出席したら、委員全員にiPadが配布され、報告書の原稿がそこに収納されていた。電子書籍といったところである。今後、建設や維持管理の現場でタブレット端末の使用が普及するものと思われる。

タブレット端末に限らず、安価に最小限必要な機能を与えるというのは、VE(バリューエンジニアリング)の発想で、下水道施設の建設にも重要な思想である。中国製品が安価なのは人件費や既製品の模倣といった問題もあろうが、われわれも考えるべき点があるのではないだろうか。